

機関番号：12601

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：平成19年度～平成22年度

課題番号：19520135

研究課題名（和文）近代文学関連雑誌の総合的研究

研究課題名（英文）Comprehensive research of the modern literature-related magazine of Japan

研究代表者

安藤 宏 (ANDO HIROSHI)

東京大学・大学院人文社会系研究科・教授

研究者番号：30193113

研究成果の概要（和文）：近代の文学関係雑誌は個人性や地域性の高い特殊な物が多く、その実体の解明は遅れている。個人的に収集してきた2万点以上の雑誌（三分の一以上は国会図書館に未架蔵）のDB，さらに公的な刊行記録である「文芸年鑑」「出版年鑑」「雑誌年鑑」の文学関係の雑誌のデータの個別のDBを作成した。これによってジャンル、編集者、地域、発行所などから検索することが可能となった。

研究成果の概要（英文）：The literary-related magazine published in modernization has many what was taken out individually, and things published in the limited area, and the elucidation of the substance is behind. First, DB of the magazine (1/3 or more of them is not possessed by the National Diet Library) of 20,000 or more points collected individually was created. Next, DB was created, respectively about the literary-related magazine published by "Bungei nenkan (literature yearbook)", "Syuppan nenkan (Almanac of Publishing)", and "Zassi nenkan (magazine yearbook)." This enabled it to search a magazine from the genre, the editor, the area, the publishing office, etc.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	900,000	270,000	1,170,000
2008年度	800,000	240,000	1,040,000
2009年度	800,000	240,000	1,040,000
2010年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：（1）日本文学 （2）近代文学 （3）雑誌 （4）出版文化
（5）メディア

1. 研究開始当初の背景

- （1）近・現代百数十年間の定期刊行物について、日本ほど自国の主要公共図書館の収蔵状況が思わしくない国はないであろうと言われている。ちな

みに申請者がこれまで収集してきた約6000タイトルの文学関係雑誌のうち、3分の1近くが国立国会図書館に未架蔵であった。特に文学関係雑誌は個人性や地域性の高い特殊

なものが多く、また、大衆文化関係の資料の収集を公共機関が忌避してきた経緯もあって、広義の「文学」関係の定期刊行物に関して、その全貌を把握するのはきわめて困難な状況にある。

- (2) 雑誌データの検索に関して、日本近代文学館を初めとする各地の文学館、大学図書館等、それぞれ個別の収蔵資料から誌名を検索することはできても、ジャンル、編集者、同人、主要執筆者、発行所などから包括的に関連データを検索するシステムはこれまで存在しなかった。

2. 研究の目的

- (1) 本研究は平成16～18年度の科学研究費補助金「基盤研究C(一般)」「昭和前期文学関係雑誌の総合的研究」の成果を基盤に、さらにその発展を旨としたものである。「文芸年鑑」「出版年鑑」「雑誌年鑑」掲載の文学関係雑誌に関するDB、また、個人で調査してきた約6,000タイトルの雑誌のDBを整備し、編集者、出版社、発行地、ジャンルなどを個別に検索できるシステムを構築することを目的とする。
- (2) 雑誌の刊行状況のうち、特に実態を把握しがたい第二次大戦前後の「疎開」地の文学活動について、公共機関の資料の基礎調査を行い、成果を活字化する。

3. 研究の方法

- (1) 特定の性格を持った雑誌のみを検索するためにはジャンル区分の定義が必須となるが、申請者はこれまで約5000タイトルの実物調査を踏まえて、広義に「文学」に関わる雑誌の性格を約90種類にジャンル分けする方法を試行してきた。これらをさらに整備し、DB作りに活用する。
- (2) 扱う範囲は、関東大震災(大正12年)以降、昭和30年前後までとする。関東大震災以降、大衆文化の勃興に平行して雑誌の種類が爆発的に増加し、また、昭和30年前後からは、国会図書館等の収蔵状況が劇的に改善されていくからである。
- (3) データベース作成の技術者1名の助言のもとに、検索システム(検索システム、入力フォーマットのシステム)の改善等を行う。データ入力を行う作業補助者2名が、「文芸年鑑」「出版年鑑」「雑誌年鑑」のデータの入力を行う。入力するデータの選定は、研究代表者(安藤)の責任において判断する。
- (4) 疎開者の文化活動の中心となった地域の図書館、文学館の所蔵資料調査を行う。

4. 研究成果

- (1) 4種類のDBの整備が進んだ。第一は、

個人所蔵資料に関するもので、あわせて5,875タイトル。第二は「文芸年鑑」(大正12～昭和32年版)に関する4,041タイトル。第三は「出版年鑑」(昭和5～33年版)に関する5,768タイトル。第四は「雑誌年鑑」(昭和14～17年版)に関する4,637タイトルである。このうち特に「雑誌年鑑」の文学関係の全データを入力することができたのは大きな成果であったと考える。

- (2) 本研究によって、雑誌の種類が劇的に増加し始める関東大震災後から、主要図書館の収蔵が充実し始める昭和30年前後までのもっとも重要な30余年間に関し、ジャンル、編集者、主要執筆者別、地域(都道府県)別の検索を行うことが可能となった。雑誌タイトルによって検索するシステムはすでに各図書館等において一般化しているが、たとえば「昭和20～24年の五年間のうちに刊行されていた、文芸欄を持つ婦人雑誌の一覧」、「ある小説家が編集主幹、同人、主要執筆者であった雑誌の一覧」、「ある県で昭和十年代に刊行されたことが確認される文芸同人雑誌」といった検索を、特定の機関の所蔵資料ではなく、網羅的にデータをプールした母集団から検索することが可能になった。「文芸年鑑」をはじめとする年刊類は、数少ない雑誌刊行の公的記録だが、従来は、あるタイトルの雑誌を年度ごとに個別に探索していくしか調査の手立てはなかったため、本DBの意義は大き

いものとする。

- (3) 研究期間中に、データベースの構築と平行して、第二次大戦直後に日本各地で刊行された地方誌に、疎開していた文学者たちが執筆していた、その活動状況を調査した。対象は大阪府梅花女子学園図書館、山形県の斎藤茂吉資料館、長野県の堀辰雄記念館、岩手県花巻市の宮澤賢治記念館、火野葦平資料館(北九州市)、河伯洞(同)、薩摩川内市川内まごころ文学館(鹿児島県川内市)がその主なものである。これらの出張活動の成果は、日本近代文学館と所蔵資料整理、文学教室・演習等の協力、各種講演による人的交流にも相乗効果をもたらすと同時に、発表論文⑥、図書②等に結実した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計12件)

- ①安藤宏「近代の小説機構—小説はいかにしてみずから「伝承」をよそおい得るか—」『文学』第8巻1号、2007、岩波書店、p31～45。査読無。
- ②安藤宏「『カインの末裔』論」『国文学解釈と鑑賞』第72巻6号(2007年6月)、至文堂、138～146頁。査読無。
- ③安藤宏「「富嶽百景」論」『太宰治研究』第15号(2007年6月)、和泉書院、121～133頁。査読無。
- ④安藤宏「近代小説の要件—小説の演技性(韓国語)」『文学思想』第36巻8号(2007年)、

文学思想社（韓国）、220～230 頁。査読無。

⑤安藤宏「近代小説における「言」と「文」
『文学』第8巻6号（2007年）、岩波書店、
58～75 頁。査読無。

⑥安藤宏「表現機構としての“作者”」『日本
近代文学』第77集（2007年）、日本近代文学
会 180～196 頁。査読有。

⑦安藤宏「太宰治『愛と美について』論」『東
京大学国文学論集』第3号（2008年5月）、
東京大学国文学研究室、1～20 頁。査読有。

⑧安藤宏「一人称の近代」『文学』第9巻第5
号（2008年）、岩波書店、32～45 頁。査読無。

⑨安藤宏「太宰治と“東京” — 「東京八景」
を中心に —」『東京大学国文学論集』第4号
（2009年）、東京大学国文学研究室、189～204
頁。査読有。

⑩安藤宏「『人間失格』の機構」『国文学解釈
と鑑賞』第75巻9号（2010年）、ぎょうせい、
115～122 頁。査読無。

⑪安藤宏「“もう一つの物語”としての肉筆資
料 — 『人間失格』を例に —」『文学』第11巻
第5号（2010年）、岩波書店、107～117 頁。
査読無。

⑫安藤宏「表現機構としての『文壇』」『東京
大学文学部次世代人文学開発センター研究紀
要』24号（2011年）、東京大学、35～43 頁。
査読無。

〔学会発表〕（計1件）

2007年日本近代文学会春季大会（2007年
5月27日 成蹊大学）シンポジウム「再生
産される作家イメージとその強度」パネラー
発表 安藤宏「表現機構としての“作者”」

〔図書〕（計3件）

①安藤宏編『直筆で読む「人間失格」』（集英
社、2008年11月）、全461頁。

②安藤宏編『展望太宰治』（ぎょうせい、2009
年6月）、全279頁。（「序」「八月十五日」と
疎開文学」の章を執筆）。

③安藤宏・島内裕子共編『日本の近代文学』
（放送大学教育振興会）2009年、全219頁。

〔産業財産権〕
○出願状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等 なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

安藤 宏 (ANDO HIROSHI)
東京大学・大学院人文社会系研究科・教授
研究者番号：30193113

(2) 研究分担者 0
()

研究者番号：

(3) 連携研究者 0
()

研究者番号：